

経産相「ストレステストで安全性確保されない」

原発再稼働 論拠崩れる

原因究明・安全確認・防災対策なし



質問する井上哲士議員
=3月9日、参院決算委

3月9日の参院決算委員会で、原発の再稼働問題を取りあげた日本共産党の井上哲士議員。福島第1原発事故の原因究明も安全確認、重大事故対策も全く取られていない実態が浮かびあがり、再稼働の根拠が崩れました。

参院予算委 井上議員が追及

井上氏は、これまでの原子力行政が電力会社の言い分にあわせて安全対策をおろそかにしてきたことを追及。班目（まだらめ）春樹原子力安全委員長は「シビアアクシデント（過酷事故）対策は事業者の自主性に任せていた」「（福島第1原発事故を招いた）全交流電源喪失は、わが国では可能性が低いと真剣な検討はしてこなかった」として「深く反省している」と答えました。

稼働を認めようとしていることをあげ、こうただしました。

井上（福島第1原発で）地震による原子炉や配管の損傷がなかったと断言できるのか。

枝野幸男経済産業相 地震によって基本的な安全機能が損なわれたという可能性を示す情報は得られていない。

井上 政府の事故調査委員会の中間報告は「あくまで推定」で結論を出せないとしている。

井上氏は、野田佳彦首相が再稼働について「事故究明、徹底調査がすべてのスタートの大前提」と述べていることを示し、「事故究明が途上なら再稼働などありえないではないか」と迫りました。

首相 一定の知見が中間報告で出ている。ストレステスト、保安院と安全委員会でダブルチェックした上で、地元を理解を得ているかふまえて政治判断をする。

井上 一定の知見だけではだめだ。また事故がおきたら「想定外」だったと言うのか。徹底した事故究明もなしに見切り発車は許されない。

（裏面につづく）

大飯原発 3、4号機 ストレステスト【1次評価】

地震	想定する揺れ	700ガル
	揺れの限界点 (安全余裕)	1260ガル (1.8倍)
津波	想定する高さ	2.85m
	津波の限界点	11.4m

柏崎刈羽原発

設計時の想定	450ガル
中越沖地震時 (2007年) の揺れ	1699ガル (3.8倍)

原子力安全・保安院資料から

報告は「推定」

井上氏は政府が、津波が原因という電力会社の主張をうのみにし、津波対策さえ講じれば、現在停止中の原発の再



大飯原発3、4号機=手前
(関電ホームページより)